

2024年取組一覧(アジア)

中国（中国大使館）

郷土料理フェア

中国（重慶）

茨城県の笠間焼香炉PRイベント

中国（青島）

下関物産展の開催

【地方自治体との連携】郷土料理フェア(中国)

在中国大使館

【概要】

1. 日時：2024年11月20日－12月20日
2. 参加：北京市内日本料理店15店舗、自治体23都県市
3. 目的：北京の日本料理店支援（新規顧客の獲得）酒、米等の導入支援。
4. 内容：

(1)日本料理店で郷土料理と当該地方等のお酒を組み併せて提供

・地方自治体からお酒を数本無償提供してもらい、無くなり次第購入してもらう仕組。

(2)地方自治体の特産品や観光をPR

・店舗での自治体イベントの開催（店舗への集客支援+自治体のPR）

例：1週間にわたる新潟米フェア（参加店舗で1週間新潟米を提供）

(3)広報

上記を広報するため微信でターゲティング広告を実施するとともに、大使館ウェイボ等を活用して広報した。

5. 効果：

- ・アンケートでは、15店舗全店舗が満足、12店舗が新規顧客を獲得、11店舗で売上向上が見られたとのこと。
- ・11店舗が、自治体提供の酒や米を購入し、8店舗が継続購入する意向。



北海道



熊本



新潟米フェア



酒・米等販売代理店と参加店舗とのマッチング

【地方自治体との連携】

茨城県の笠間焼香炉PRイベント(中国)

開催日: 令和6年1月23日

場 所: 在重慶総領事公邸

主催(共催): 在重慶総領事館、茨城県上海事務所、青山スクエア重慶店

在重慶総領事館

【概要】

●日本各地の伝統工芸品を販売する青山スクエア重慶店との共催により、総領事公邸にて茨城県の笠間焼香炉発表会を開催。中国人顧客向けに研究開発された笠間焼香炉を、約30人の文化人や日本の伝統工芸品愛好家に対して紹介。

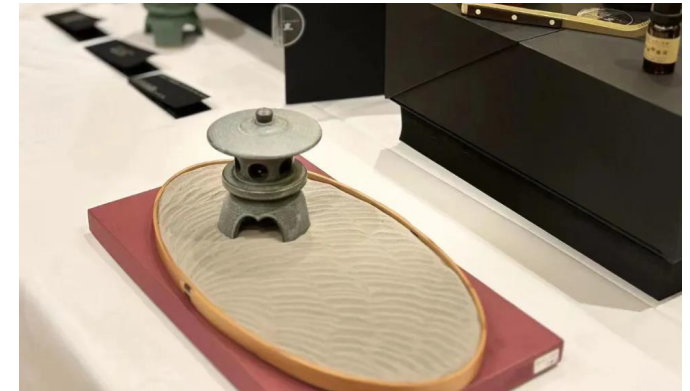
●茨城県上海事務所長より、実用性にも配慮しつつ中国人にも好まれる枯山水をモチーフとした笠間焼香炉の2年半に亘る開発過程を説明。

●笠間焼香炉の利用体験のほか、中国人専門家による中国の茶と香のデモンストレーションを実施し、香を通じて日中文化比較を体験できるイベントとなった。

●併せこの機会に、茨城県の観光PR、茨城県ブランドの日本酒(中国国内生産)の紹介を行った。

【結果・評価】

●当館が青山スクエアとの協力により築いてきた日本の伝統工芸品愛好者等の人脈を最大限活用したイベントで、笠間焼を高く評価する声や茨城県に更に関心を持ったとの声が多く聞かれ、香炉をその場で購入する者が数人現れる等、効果の高いイベントとなった。



【地方自治体との連携】

下関物産展の開催(青島)

開催日: 令和6年7月21日

場 所: 青島市市南区天主教青島天主堂前広場

主催(共催): 下関市、青島市

協力/参加企業・自治体: 下関酒造、高田珈琲、在青島総領事館

在青島総領事館

【概要】

- 青島市と下関市の友好都市締結45周年を記念した行事の一つとして、青島市旧市街地にて下関物産展を開催。開幕式では下関市長と在青島総領事により挨拶を行った。
- 2023年で創業100年を迎えた下関酒造と下関市で最初の珈琲屋として開業した高田コーヒーが出店し、商品の試飲提供を行ったほか、下関市の観光パンフレットの配布も行い、多くの青島市民に下関の魅力を伝える機会となった。
- 当館公式SNS「公衆号」にてイベント開催の予告及び事後広報を行った。事後広報では、下関市から提供されたフォロープレゼントを織り交ぜて発出した記事に約50件に及ぶ好意的なコメントが寄せられるなど、当地市民の関心の高さが窺われた。
- 青島ビール祭りの開催会場の一つでもある、人の出入りの多いオープンスペースで日本関連イベントを開催できたことの意義は大きい。鏡開きには、当初、中国側は欠席するとの立場であったが、当館からの様々な働きかけにより、当地外事弁公室副主任の出席を得て、日中双方がともに友好都市締結を祝う形式とすることができた。

